

補 正 表

■ P49 (2) 株価指標 2 段落 (下から 10 行目～4 行目) 以下に差し替え

日経平均株価 225 種は、東京証券取引所プライム市場に上場されている約 1,800 銘柄の中から 225 銘柄をピックアップし、平均株価を算出したものです。一方の東証株価指数 (2022 年 4 月 4 日以降) は、旧東証一部に上場されていた全銘柄 (約 2,200) の時価総額を指数化したものです。ただし、2022 年 10 月末から 2025 年 1 月にかけて、流通株式時価総額 100 億円未満の銘柄の構成比率が段階的に下げられ、新たにプライム市場に加わった銘柄が順次追加されるかたちで構成銘柄が移行します。東証株価指数は、日経平均株価 225 種よりも多くの銘柄が対象である分、より市場全体の値動きがわかる指標です。

■ P53 以下の解説文を新規追加

市場区分の再編成で指数はどうなる？

2022 年 4 月 4 日から、東京証券取引所の市場区分が「プライム市場」、「スタンダード市場」、「グロース市場」の 3 つに再編されました。2013 年に東京証券取引所と大阪証券取引所が統合して以降 4 市場がありましたが、東証二部、マザーズ、JASDAQ の位置づけが重複しているなどコンセプトが曖昧で投資家にわかりにくいこと、各市場区分への新規上場基準と上場維持基準が同等でないなど積極的な企業価値向上を促す仕組みとなっていなかったことが、再編の理由です。

再編により東証株価指数 (TOPIX) も、旧東証一部上場銘柄の構成が 2022 年 10 月～2025 年 1 月と時間をかけて段階的に見直されます。TOPIX は日本を代表する株価指数であり、連動するよう運用されるインデックス・ファンドや ETF も多数あるなど、指標としての連続性を損なう急激な見直しは影響が大きいからです。

東証一部上場銘柄から選定されていた日経平均株価 (日経 225) については、プライム市場からの選定となります。日経 225 は連続性を損なわないよう、毎年 10 月初めに構成銘柄の入れ替えを検討する定期見直しを行っており、再編の影響はほとんどないといえます。

■ P87 巻末資料 1 表「〇先行系列 (11) 景気の動きを先取りして動く指標」下から 3 行目

誤) 東証一部上場銘柄

正) 旧東証一部上場銘柄